



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

- P 1 立教セカンドステージ大学の新たな10年に向けて
- P 2 RSSC 10周年記念特集
- P 3 本科清里ゼミ合同合宿
- P 4～5 本科ゼミナール紹介
- P 6 専攻科ゼミナール紹介
- P 7 公開講演会、ホームカミングデー、立教グッズ
- P 8 社会貢献活動紹介、クリスマス

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学
編集責任：野澤 正充 編集長：浜田 光二
発行日：2019年2月20日
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1



立教セカンドステージ大学の新たな10年に向けて

立教セカンドステージ大学副学長
(立教大学副総長) 野澤 正充



立教セカンドステージ大学(RSSC)の創立10周年を、心より祝い申し上げます。

RSSCは、2008年4月に創立されました。この2008年という年は、一方では、アメリカ合衆国の証券大手リーマン・ブラザーズが経営破綻した、いわゆるリーマン・ショックの年で、世界経済が混沌としました。しかし、他方では、バラク・オバマ氏が大統領に選出され、新たな希望へと向かう年でもありました。それからの10年間、RSSCも、いくつかの困難に直面しましたが、900名以上の修了生を輩出し、その多くが社会貢献活動をはじめ、さまざまな場面で活躍されています。

ところで、「人生100年」といわれる時代を迎え、シニア世代の「もう一度学び直したい」という要求は強く、多くの生涯学習講座が開設されています。そのような中で、RSSCが安定した人気を得ているのは、他の生涯学習講座にはない、さまざまな創意工夫があるからだろうと思います。

例えば、年間を通してキャンパスを利用できることや、一般の学生と同じ授業を履修することによる「異世代共学」なども魅力の1つです。しかし、RSSCの最大の特徴は、全ての受講生がゼミナールに参加し、修了論文を書くことだろうと思います。シニアになって長い論文を

書くことは大変ですが、「論文を書く」という行為は、最もクリエイティブな活動であるとともに、「自分とは何か」という自らの内面に迫るものでもあります。また、ゼミをとおして、受講生相互の絆が深まることも大切な要素でしょう。

このほか、修了後の社会貢献活動へと繋ぐサポートセンターの存在や、修了生相互を繋ぐ多くのサークル、そしてRSSC同窓会の活動も、RSSCの大きな特色です。

しかし、どのように仕組みが優れていても、それを支える「人」がいなければ、「制度」は十全に機能しません。RSSCは、この10年間、優れた先生方と熱心な事務職員、そして多くの受講生と修了生とに支えられてきました。

わたくしがRSSCの副学長に就任したのは2018年4月で、まだ半年しか経っていません。しかし、RSSCの10年間を振り返るとともに、これからの10年を見据えて制度を設計してゆくことが、わたくしに課せられた使命であると考えています。すでに着手しているカリキュラムの一層の充実や運営体制の整備は、その端緒にすぎません。

最近では、「持続可能性」(sustainability)という語が、さまざまな領域で用いられます。その背景には、社会の変化が急激で、持続できないものが多い、という事情があるのでしょうか。大学も、少子高齢化が進む中、どのようにその持続可能性を図るかは喫緊の課題です。半面、RSSCの需要はさらに高まるでしょうが、よりよいものを提供してゆかなければ、持続は難しいと思います。そのためには、みなさん一人ひとりの協力が必要です。今後とも、立教セカンドステージ大学を、どうかよろしくお願いいたします。

立教セカンドステージ大学創立10周年記念特集

立教セカンドステージ大学(RSSC)は2008年の設立から今年で10周年を迎えました。その記念イベントをご紹介します。またRSSC同窓会会長の白井誠一氏からRSSCへの思いをご寄稿頂きました。

大盛況の「創立10周年記念講演会・パーティ」



郭学長ご挨拶(記念パーティ)

10月18日(木)の午後、「RSSCらしくアカデミックかつ格調高く」をモットーに(坪野谷先生談)開催された記念講演会・パーティは、多くの皆様のご参加を得て、大盛況でした。司会は10期生・11期生のゼミ長会の代表者がそれぞれ工夫を凝らして行いました。講演会は大教室が満席となり、野澤正充副学長(記念事業実行委員長)の開会挨拶で始まりました。第一部は、文部科学省社会教育振興統括官の塩見みづ枝氏より、「人生100年時代におけるリカレント教育への期待」と題して、持続可能な社会を創造していくためには、社会人の学び直しが一層重要になるという内容のお話がありました。その中で先進的な取組み事例として、RSSCが社会参画、地域活動への貢献を推進するための「学び

直し」として紹介されました。第二部は元日本銀行神戸支店長の鉢村健氏が登壇され、「世界のパラダイムシフトと日本の役割」と題して、広い視野から語られ、RSSCはその知的な活動が他者に対する価値観を高め、「寛容」な態度を伸ばすことにも繋がる最適な場所だと期待を述べられました。

記念パーティは、第一食堂で、郭洋春学長から、RSSC創立の先見の明と今後の発展へのご挨拶、坪野谷先生から来賓・元教員のご紹介、それを代表して立花隆先生と庄司洋子先生のツーショットで設立当初の懐かしいエピソードをいただきました。歓談中、「ウクレレ合唱団」の素晴らしい熱演と「立教大学応援団」の演舞があり、大喝采が鳴り響きました。最後に共催であるRSSC同窓会会長の白井誠一氏のご挨拶の折、1期生で卒寿を超えられた木村静枝さんを壇上にお誘いしました。木村さんの「RSSCで学んだことが人生最高の幸せ!」という言葉が、10周年記念の全てを物語っておりました。

創立10周年記念国際シンポジウム



国際シンポジウム風景

10月27日(土)池袋キャンパスにおいて、シンポジウム「シニア学びの群像—多様な形態と交流の拡大へ」が開催されました。主催は、高齢者の学習・教育にかかるプロジェクト(代表 木下康仁先生:聖路加国際大学大学院特任教授・立教大学名誉教授・元RSSC副学長)、共催は立教セカンドステージ大学。三つの講演と事例紹介の後、質疑応答が行われました。イギリスからは、会員数37万人を擁する市民型教育運動U3A(University of the Third Age)について、来日した同組織の理事である、Ms. Jenny Carleyより紹介がありました。次いで、RSSCの坪野谷雅之先生が「シニアの多様な生き方と学びの有効性の実証」と題して、RSSC設立の背景、社会貢献活動サポートセンターの活動事例を紹介されました。三番目にNPO法人かわさき市民アカデミーの紹介がありました。その後、木下先生の司会の下、大阪教育大学の堀薫夫先生も加わり、質疑応答が熱心に展開されました。シニアの学びについて、グローバルかつ多様な組織からの提言や事例を紹介するシンポジウムは初めての試みであり、大変意義深いものとなりました。RSSCに学ぶ者としては、質疑応答を通じ、10周年を迎える「立教モデル」の先進性と、大学だから初めて可能になる独自性を改めて認識するところとなりました。

RSSC同窓会会長 白井誠一(1期生)挨拶

創立10周年を迎えて

立教セカンドステージ大学創立10周年おめでとうございます。お陰様で、同窓会も10周年を迎え、会員数も現在1000名になろうとしております。これを記念した事業として同窓会ホームページ上に特別記念サイトを設け、修了後、地道に社会貢献活動に取り組んでいる方、頑張っ



2018年度本科清里ゼミ合同合宿

八ヶ岳山麓の清泉寮にて

清泉寮は、立教大学ゆかりのポール・ラッシュ博士により設立されたキープ協会が運営する宿泊施設。ここで、今年も恒例の本科清里ゼミ合同合宿が、8月30日から9月1日まで2泊3日の日程で開催されました。本科生56名、教職員11名が参加し、さわやかな自然の中で懇親を深め、思い出に残る3日間となりました。

主なイベント

- 1日目 野澤正充副学長講演、佐藤壮広先生ワークショップ、キャンプファイヤー、星空観察会
- 2日目 野鳥観察会、ネイチャーウォーク、聖アンデレ教会見学、オプションツアー（サントリー白州工場見学・美術館コース、清里周辺・美術館コース、自由行動から選択）、懇親会
- 3日目 ポール・ラッシュ記念センター見学

佐藤壮広先生ワークショップ

〈清里「歌の人間学」〉

グループに分かれ佐藤先生の指導のもと、「青春時代」「一週間」「ふるさと」「立教第二応援歌」の4つの曲のメロディーに合わせ、全員でキーワードを出し合いながらカレヅライフを詞（ことば）にして、合唱発表しました。ゆかいな歌詞があふれ、楽しい共同作業でした。



自然観察会

〈清里の豊かな自然に触れる〉

キャンプファイヤーの後の清泉寮スタッフの案内による星空観察会、鳥類学が専門の上田恵介先生による早朝の野鳥観察会、キープ協会のレンジャー（自然案内人）と周辺の森を散策するネイチャーウォークなどが行われました。

ネイチャーウォークでは、森に棲む天然記念物のヤマ



ネのことや笛笛の作り方を教えてもらったり、草むらに横たわってみたりと、自然の中で貴重な体験をすることができました。

懇親会

〈ギターコンサート、フラダンスで最高潮に！〉

懇親会では、まず立教大学スペインギタークラブOBの皆さんによる「リハビリットハウゼ楽団」のギター演奏会が行われました。OBの皆さんには、この演奏会のためにわざわざ清里まで来ていただきました。プロのギタリストだった方もメンバーにいる本格的な演奏で、素敵な時間を過ごすことができました。

佐藤先生の歌とギター演奏、事務室の足立課長とのデュエット演奏による「ヘイジュード」などが続いた後、女性陣によるフラダンスで会場は大いに盛り上がりしました。フラ経験者の指導のもとに事前練習をした女性陣に、一部男性陣も加わり、「月の夜は」の曲に合わせ、楽しく元気に踊っていました。



大自然と友と笑顔、永久不滅の清里合宿！

本科総ゼミ長 根本 幸雄

今年の企画は、「大自然に抱かれ、好奇心を持って、新しい出会いやイベントを楽しむ」をテーマに、本科ゼミ長8名と担当教員、事務室の皆様のチームワークで、20回以上の会議を重ね、18の分科会で準備して、2度の現地調査も行いました。お蔭様で、参加者の95%の方々から「とても良かった」と「良かった」の評価をいただきました。今後は、このプログラムの内容をより充実できるように、後輩に引き継いで行く所存です。

4月に入学してから半年が過ぎ、それぞれの講義やゼミ活動、清里ゼミ合同合宿、サークル活動などを通じ、本科生同士の親交はどんどん深まっています。

渡辺ゼミ 自由闊達な渡辺ゼミ



アメリカ文学、日米比較、創作が専門の渡辺信二先生とゼミ生で構成されています。本ゼミでは高村光太郎『レモン哀歌』、太宰治『走れメロス』、中島敦『山月記』を題材にディベート。各自が他の人に推薦する価値があると思われる書籍の推薦文を作成しPRする「ビブリオバトル」を行うなど、テーマは盛りだくさん。本ゼミのおかげで、私達は与えられたテーマに対して常に疑問を持ち、自然と〈9つの質問〉を考える習慣が身につきました。

自主ゼミでは、それぞれが今ハマっていることについて材料を持ち寄り紹介するなど、毎回テーマを変えて楽しんでいます。フィールドワークもあり、9月は目黒雅叙園・百段階段、11月は北区飛鳥山公園・渋沢史料館の見学へと積極的。

メンバーが実に個性豊かで毎回、議論百出。RSSCの各種パーティの後は先生も一緒に二次会のカラオケへ出撃、歌い放題。このようなゼミで、厳しい指導の中に優しさあり、皆が渡辺ゼミでよかったと大満足しています。

野田ゼミ 几帳面な優しい天使の贈り物

未だ少年の色褪せぬ14の瞳、人生楽しみ時の淑女12の瞳、野田ゼミは個性豊かな13名です。アメリカ文化、環境文学研究分野で高名な野田先生がゼミご担当で修論をドウシヨウ不安派とナントカナルヨ樂觀派の混合チームがスタートしました。

楽しい講義：修論圧力＝「幸せ」：「不安」の公式を胸に秘め出席した教室で野田先生より①初心者にも理解可能な長期計画のご提示②各々のテーマにしなやかで丁寧なご対応③正確な情報記録力を基に立案された進捗管理④ヤル気を引出す温かい激励を頂き、ゼミ生は勇気凛凛、気力上昇。7月にPowerPoint Presentationトライアルを乗り切った仲間の顔に浮かんだ安堵感溢れる笑顔は、まさに“野田天使の贈り物”でした。

正・副ゼミ長、各委員のご努力に依るRSSCイベントは想像を超えた充実ぶりでセカンドステージ「ハンパない！」。



毎月のゼミ飲み会を重ねる毎に親密度増し、世俗の鎧を脱ぎ捨てた連帯感。遠足は「酒蔵ツアー」飲んで、歌って、笑った後は修論完成へ野田艇ヨウソロ！

成田ゼミ 社会を見る目、自分を見る目

社会学専攻の成田先生のゼミに参加し、あっという間に春学期、清里ゼミ合同合宿、夏期集中講義が終了し、既に秋学期も中盤です。その間、成田先生



からは修了論文に対するいろいろな視点の助言をいただき、それを皆で理解しようと、ゼミの終了後は復習を兼ねた懇親会を毎回開催し、交流も図ってきました。最近、その甲斐あって、各自がテーマを絞ることができ、概要書(案)を作成するところまで辿り着きました。それをゼミの時間に皆でワイワイと意見を言いながらレビューしています。

そこで一息つこうと、11月1日、成田先生含め全員で豊洲市場と築地市場の社会見学に行き、移り行く時代の流れを皆で確認し合い、築地の波除神社では健康祈願、修了論文合格を皆で祈りました。その後、立教OBが経営されている銀座のセントポールサロンで懇親会をし、今後の修論作成・提出に向けて、「一致団結頑張ろう！」と皆で誓って、その日の社会見学と懇親会は無事終了しました。

千石ゼミ カオスと自由を楽しむ

わたし達のゼミはカオスの中にいます。ゼミ生13人の興味や関心にほとんど重なりがないからです。でも、これはとても素晴らしいことで、「みんなちがって、みんないい」(金子みすゞ)。ゼミでの話題も広がるというものです。歴史、経済、哲学、文学から、国際、スポーツ、幸福、食品、皇室へと、修了論文のテーマや時事問題に花が咲くのです。価値観や感性がみんな違っているから、考えてもみなかった発言に驚かされることもしばしばです。

カオスを楽しみ、カオスに遊ぶ。個性ある13人を、千石先生がその磁力でカオスを鎮めると、少しグラデーションがかかり一幅の絵画になります。難解で不透明なことを噛み砕いて説かれる先生の声は、知性を私たちに静かに降らせます。一幅の絵と降り積む知性が、私たちを四季折々の美の中に導くようです。これこそ学生の自由と身分を存分に楽しむ私たちの「贅沢」です。

そして、池袋の居酒屋へ、神宮の野球応援へ、美術館へと皆連れだって出かけていくのです。



ナール紹介

各ゼミでは経験豊富な先生方からの暖かいご指導のもと、修了論文を書き上げるための意見交換だけでなく、教室を飛び出して、様々な課外活動なども行っています。

鈴木ゼミ

個性あふれるメンバーが多彩なテーマで

50代から70代まで幅広い年齢のゼミ生が集まり、経歴もいろいろ、修論のテーマもいろいろです。戦争と石油、お寿司、民芸運動、健康寿命、ラジオ体操、



ポピュラーカルチャーなど、皆それぞれユニークなテーマを選び、鈴木先生の暖かいご指導のもと、修論の完成を目指し果敢に取り組んでいるところです。

そのような中でも、ゼミ生の結束は固く、課外活動も盛んで、10月には、鈴木先生が管理室長を務める立教大学原子力研究所の見学に伺いました。事前に、原子力研究所の歴史や内部構造、放射能の基礎知識と人体に与える影響等について先生直々の講義を受講し、準備万端で横須賀の研究所を訪問して、帰りには逗子海岸沿いの素敵なレストランでおいしいランチをいただきました。

また11月には、有志で国立演芸場に落語を聞きに行ったほか、月例のSFP (Suzuki Seminar's Friendly Party = 鈴木ゼミの懇親会) では、卒業旅行はいつ頃、どこへ行こうかという話で盛り上がっています。

栗田ゼミ

修了論文、いよいよ佳境に



を謳歌してきました。

栗田先生の論文指導は綿密なスケジュール管理が特徴。4月、先生から論文の要件のレクチャー。「三上 (さんじょう)」通勤・通学、枕、トイレ・お風呂の「上」で考えること。分析方法、結果の導き方、主張の正当性など、「作文ではない、ごつくても構わないからユニークさを出しなさい」と。その後各自が選んだテーマについて、理由と概要を発表、全員からの質問や意見を受け、先生のアドバイスを参考に論文体裁にまとめ、秋学期に順次発表していきました。初めて論文を書く人、仕事で書く企画書とは全く勝手が違い戸惑う人もいましたが、合間には社会見学、各自趣味の発表など楽しい企画での息抜きもしっかりと行い、秋学期には皆独創的な主張を織り交ぜてまとめ上げました。栗田ゼミ渾身の結果にご期待ください。

昨年春に集ってから、夏休み、秋学期のスタートとともに修了論文作成も佳境に突入。この間ゼミはもちろん、活発な研究会などを通して皆キャンパスライフ

黒木ゼミ

Rの品格

3つのRの品格を身につけんがため、黒木ゼミメンバーは日々精進しております。1つ目は立教大学のR、2つ目はRSSCのR、そして3つ目は龍三 (黒木先生) のRでございます。

では、「高級」が織りなす品格をお持ちの黒木先生の下に集いしメンバーをご紹介します。元バリバリキャリアウーマンのベビーフェイス清水 (ゼミ長)、グルメでワイン好きなダンディ金本、とにかく明るいイケメン高久、ボーカルと論文は俺にまかせろ中尾、情熱あふれるパッション松田、お目々がくりっとチャームング露雪、こだわりのおしゃれ派三上、唯一のバリバリ理系ジェントル瀬上、インテリの香り漂う色白マダム三谷、癒しオーラ全開ゼミの母福原、仕事掛け持ちの頑張り屋さん米望、連絡と事務処理に燃える沢田、の個性あふれる12名です。経験も背格好も性格もまったくバラバラな私たちですが、ひとつになるとこれまた不思議、よい味を醸し出します。ぜひ一度黒木ゼミをご賞味ください。ワンダーランドへお連れします♪



北山ゼミ

個性的ですばらしい仲間達

毎週金曜日のゼミを重ね、テーマごとに北山先生の幅広い経験から出る話と指導の下、お互いの論文の進み具合に一喜一憂し、意見交換を活発に行っています。北山ゼミのモットーは、「みんなで作り上げていく論文」。仲間の論文テーマに沿った新聞記事があると切り抜いて持ってくるなど、情報を提供し合い、「みんな」で取り組んでいくことで、よりまとまりが強くなりました。

夏には北山ゼミ10期生の先輩方と納涼船で親睦会を開き、先輩方の体験談などで盛り上がり、また他のゼミとの合同飲み会も行い、人の輪も広がっています。北山先生のお誕生日には、サプライズで《Bon Anniversaire!》の言葉とクラッカーでお祝いしました。グループLINEでの楽しいやり取りは、お互いの距離感を一層近くしています。

秋も深まり論文作成も佳境に入り、図書館ではゼミの誰かと顔を合わせることが多くなりました。一人一人個性的

でありながらがっちりまとまっている私たちは、論文作成の合間も楽しいイベントを考え中です。

5

専攻科ゼミナール紹介

本科修了後、さらに勉学を続けている専攻科のゼミ紹介です。

平賀ゼミ

キラリと光る個性“平賀ファミリー”



清里ゼミ合同合宿の後、平賀先生の清里にあるVillaにお邪魔しました。建築家のご主人が設計され、南面のガラス戸が全開できる構造になっていました。広い芝生や借景のカラマツ林が天井の高いリビングと完全に繋がり、自然と住居空間の一体感を味わいました。美味しいワインと食事を堪能しながら庭で始まったパーティも、その後、家の中に移動し、のど自慢、即興漫才を心ゆくまで楽しみました。個性的なメンバーが完全に平賀ファミリーになりました。

素敵な空間で、平賀先生と素敵な仲間達で素晴らしい夏の思い出を作ることが出来ました。

高橋ゼミ

アカデミックシャワーに洗われながら

早いもので、今年度の半分が過ぎました。ドイツ文学者で教養論者の高橋先生の下、専攻科の私達7名は、今年もまた修論に向け白熱した時間を過ごしています。先生は磨かれた知識と経験が混ざり合ったユーモア溢れる言葉で、多様性の素晴らしさや混沌を熱く語られます。その言外には「自由な市民」が隠れ煌めいています。

また、校外活動も積極的です。ゼミ仲間が館長の『伊能忠敬記念館』を訪ね、水郷の街「佐原」の見学の他、様々な名目の飲み会を楽しみながら、秋の実りのようなキャンパスライフを過ごしています。



坪野谷ゼミ

書を捨てないで、町に出よう

セカンドステージ創立に参画された坪野谷先生を中心に、ゼミメンバーは女性2名と男性6名の計8名。男性の平均年齢は70歳を超えていますが、歳を感じさせない明るく元気な面々です。

「町に出よう」を合言葉に、ゼミ終了後の反省会を兼ねての定例飲み会、ゼミメンバーの誕生会、浅草のサンパカーニバルショー、平林寺見学、甲州市講座、寄席見物等を行っています。「書を捨てないで」の実践としては、複数人の大



学院への進学、多岐に亘る修了論文のテーマです。

3月にはメンバーの出身地である金沢への卒業旅行を計画しています。

加藤ゼミ

キーワードは探求心と実践力

加藤ゼミに共通するキーワードは「探求心と実践力」であり、好奇心と探求心の旺盛な9名のメンバーで構成されています。



修論の作成にあたっては、机上の理論だけではなく、実践に裏付けされたオリジナリティーの高い内容を目指すため、其々のテーマに基づき釜山・対馬、バンコク、小笠原、琵琶湖、京都、都内各所へと各自の目と足でフィールドワークを行いました。

現在は、修論の追い込みで四苦八苦の毎日ですが、ゼミ後の課外授業（飲み会）と議論でリフレッシュしながら、残り少ない専攻科生活を楽しんでいます。

上田ゼミ

充実したシニアライフをENJOY中



上田ゼミでは修了論文の作成以外に、人間性醸成を目的として、教室外での活動にも精力的に取り組んでいます。その一例として、ここでは大衆的な古典芸能である落語の鑑賞について紹介します。当日は、ゼミ後に腹ごしらえをして池袋演芸場に乗り込みました。満員の熱気に包まれてプログラムは進み、最後の真打の題目「牡丹灯籠・栗橋宿」では、時間が経つのも忘れてその話芸に引き込まれ、落語を堪能した夜でした。落語以外にも、上田ゼミでは多様な教室外活動があり、豊かな人間性が育まれています。

立教セカンドステージ大学主催 公開講演会が開催されました

終活のすすめ ～自分らしい最期を考えよう～ 小谷みどり先生

第一生命経済研究所主席研究員、RSSC講師を務める小谷先生の講演会が12月2日に開催されました。先生のご専門は生活設計論、死生学、葬送問題であり、今回の講演では「人生をどう締めくくるか」という誰にでもいずれ訪れる最期に向け、終活事情をわかりやすく説明していただきました。シニア世代も「これからの夢」を持つことと、自分の最期は「元気なうちに考えておくこと」が大切であると学びました。RSSC受講生をはじめ、一般の方にも興味ある内容で、参加した方々は真剣な表情で聞かれていました。



シニアが輝く人生二期作・二毛作 松田智生先生

三菱総合研究所プラチナ社会センター主席研究員、RSSC講師を務める松田先生の講演会が、12月9日に開催されました。

今回の講演では、目指すべき高齢社会としてのプラチナ社会、シニアが輝くセカンドライフのお話をしていただきました。RSSC受講生や、仕事にひと区切りをつけた人たちの、これからの人生に役立つような内容でした。アクティブシニアとは「今、何かに夢中な人」。そうしたシニアには「過去を語らず今を語る」、そして「一歩踏み出す勇氣」が大切であると学びました。



人生100年時代、セカンドステージではばたこう！ ホームカミングデーに同窓会が出展



立教大学校友会と立教大学が共催するホームカミングデーが10月14日に開催されました。本館1202教室がRSSC同窓会出展会場となり、リコーダーアンサンブル、ウクレレ合唱団『鈴懸』の演奏、ウタテラスの合唱、オリンピック・パラリンピック・レガシー研究会の寸劇など、来場された方とともに歌い、笑い、楽しい時を過ごしました。また、同好会や社会貢献活動サポートセンター研究会の活動内容もパネル展示で紹介されていました。

本館前のオープンマーケットでは、秩父市のワイン・ウイスキーの試飲や、「NPO法人コットンドリームいわき」震災復興支援セールで、こしひかりやオーガニックコットンタオルなども販売され盛況で、賑やかな楽しい1日となりました。

立教グッズ紹介

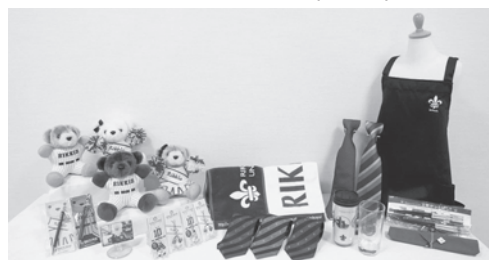
立教グッズ、いくつ持っていますか？今回は、その立教グッズと購入方法をご紹介します。立教グッズは、セントポールプラザ2・3階（ローソンの上）、メーザーライブラリー記念館内の展示館、セントポールズ会館（松本楼の入っている建物）の3か所で取り扱っています。

セントポールプラザ2階では、文房具やスウェット、タオルハンカチなどを販売。また、立教オンラインショップでは、体育会応援グッズや人気のヘリテージコレクション（マグカップ、ペーパーウエイト、クリスタルシリーズ）等、様々な商品が揃っています。立教オンラインショップで扱っている商品は、セントポールプラザ3階でも購入でき、展示館でも一部展示販売しています。

また、セントポールズ会館では、人気の立教ベアグッズや「立教かつとばし！！」（野球部の折れたバットをリサイクルして作成したお箸）、折りたたみ傘などの様々なグッズが販売されています。こちらは、立教大学校友会ネットショップでも購入できます。立教グッズを持って学生たちを応援しに行きませんか？



ヘリテージコレクション
立教オンラインショップ shop-rikkyo.com



セントポールズ会館販売グッズ
立教大学校友会ネットショップ
rikkyo-alumni-shop.jp

OBの社会貢献活動紹介

「共学」からNPOでの「共働き」へ

立教大学名誉教授・元RSSC教員 庄司 洋子

私は、RSSC設立準備段階の2007年度から7期生入学の2015年度まで、教員としてこの期間を心の底から楽しんで働かせていただきました。それは、RSSCが掲げる「異世代共学」に加えて、もう1つの「共学」、つまり「誰が生徒か先生か」という教員と受講生の関係があったからです。そこから、RSSCが受講生に呼びかけるもう1つの精神、修了後は再び社会へという「社会貢献活動」を、自分も実践してみようという気持ちになりました。

現在、「NPO法人学生支援ハウスようこそ」という団体をつくり、児童養護施設や里親家庭で高校を修了し進学を志した学生を支援するために、古い民家を改修して、定員5名（女子）の小さな支援付きシェアハウスを運営しています。そしてそこには、理事・監事・事務局・調理ボランティアにRSSC修了生が加わってくださっています。皆さんには申し訳ないほど働いていただいておりますが、これは、私にとって、RSSC仲間との新しい「共働き」の実践にほかなりません。その他多くの修了生の皆さまにも物心両面のご支援をいただいております、この場を借りて心からのお礼を申し上げます（活動内容については、<https://www.npoyokoso.com/>をご覧ください）。



下町こども食堂の活動について

5期生 石田 真理子

私が地元台東区で「下町こども食堂 さくら」を開始したのは、RSSC専攻科を修了した翌年2015年の秋でした。当時はまだこども食堂の数も少なく、大田区や豊島区等都内に数軒しかありませんでした。現在は日本各地に2000以上もあると言われているこども食堂ですが、今こども食堂の活動自体が過渡期を迎えていると言えます。

私たちも2軒のこども食堂を月に3回実施しており、今までに延べ2000人のお子さんや保護者に参加いただいております。そんな中で、様々な現代社会におけるご家庭の問題点が浮かび上がってきました。特に私たちの食堂は経済的に厳しい地域（山谷のすぐそば）にあるため、食の支援・学習の支援のみならず、生活自立支援など少しずつ活動の幅を広げております。子供も自ら選んで貧困家庭に生まれてきたわけではありません。誰かの手助けによって、貧困から抜け出すことのできる子供もいます。私たちは常に子供に寄り添いながら、子供たちが将来自立して働ける大人になれるようサポートする事を目標としています。どうかRSSCの皆様にもご支援を賜りますよう、お願いいたします（活動内容については、<http://taitokonet.jimdo.com/>をご覧ください）。



石田さんはじめスタッフの方々が子供たちに寄り添って食育をされている、その風景に接した心温まるひと時でした（見学者記）。



立教大学のクリスマス



イルミネーション点灯式（11月27日）・RSSCクリスマス礼拝（12月20日）

聖歌隊はじめ関係者の見守る中、立教大学のシンボルである二本のヒマラヤ杉にイルミネーションが点灯されました。中川英樹チャプレンから「戦後の1949年より点灯式が開始されました。焼け野原だった池袋に、救いの灯、希望の灯として住民の皆さんにも明るさを伝えて来ました」というお話を頂き、感動を新たにしました。昨今はLEDによる鮮烈な光を放つイルミネーションが主流となっていますが、立教大学のイルミネーションは昔ながらのほのかな温かい光が星のように煌めく風情で魅力的でした。また、ツリーだけでなく、校内のあちらこちらに置かれた飾りも素敵でした。12月20日には私たちRSSCのための特別なクリスマス礼拝が行われました。入学式で出会った仲間とキリストの生誕を祝福し、絆を強めたひと時でした。



編集後記

今号は野澤副学長の巻頭言から盛り沢山のトピックスをお届けしました。11期の皆さんにとり、思い出に残る場面が多く掲載されていることを念ずる次第です。

今回は「立教グッズ」も取り上げました。RSSCでの学びの記念に、またご家族や知人へのプレゼントに活用いただけるようお勧めします。ご寄稿いただいた皆様に感謝します。

編集委員：石井 文昭、石田 真由美、岡本 晃二、加藤 文
奈良 照枝、浜田 光二、本田 耕三、松田 明夫
担当教員：平賀 正子、渡辺 信二